

介助ガイドが旅をサポート



目が不自由な人、盲導犬を連れた人ら誰でも参加可能なUD・FUN旅の様子。この日は赤穂義士祭に合わせて東京都港区の泉岳寺を訪れた＝2014年12月14日

年を取っても、障害があっても旅をしたい——。そんな願いに応えてくれるサービスが増えている。ヘルパーや看護師ら有資格者や独自の研修を経たガイドが介助のために同行したり、バリアフリー情報に基づいて旅を企画したりする。「思い出のあの地に」「念願のあの場所に」と希望する高齢者や、親孝行をしたいという家族らの願いを後押しする。

●古里の法事に出席

NPO法人ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク(東京都多摩市)は、障害などがあってもその人が希望する旅ができるようサポートする。昨年11月末に請け負ったのは千葉県野田市の高齢者施設で暮らす要介護5の女性(85)。同NPOの「旅行介助ガイド」として看護師の女

性(67)が付き添った。古里の滋賀県米原市である法事に出席する1泊2日の間、食事や排せつの介助の他、就寝中体の向きを変えることを任された。

当日、女性は長女(54)に付き添われて介護タクシーで東京駅に着き、ガイドと合流。新幹線に乗り込む前、「古里に戻るの4年ぶり」と話をしていると、懐かしさがこみ上げたのか涙を拭いた。

翌日、東京駅に戻ってきた際の女性の表情は一転して晴れやかだった。子どもたちや親戚に会い、最後には「帰りたい」と話したという。「兄弟がNPOのことをインターネットで見つけて利用した」という長女も「最初は家族で母をみればいいと思っていたけれど、笑顔を見てほっとした。介助があるおかげでゆっくりとだんらんの時を過ごせた」と満足そうだった。親子はすっかり打ち解けたガイドに向けて笑顔で手を振り、別れを惜しみながら帰っていった。

このNPO法人はこれまで、車椅子利用者、視覚障害者、聴覚障害者、透析の患者、精神・知的障害者らさまざまな人の旅をサポートしてきた。おそとまさんが代表は「地球のどこまでも、その人のニーズに合った旅を提供したい」と心強い。介助料の目安は1日1万9000円。

また、ユニバーサルデザイン(UD)に配慮した東京近郊の日帰り旅「UD・FUN旅」も隔週ペースで週末に催す。ガイドが付き、エレベーターや多目的トイレなどの場所も事前に把握している。海外ツアーも不定期で企画する。戦後70年の世界一周「をテーマに4月に実施するべ

トナム戦争の現場をたどる5泊8日の旅は参加者を募集中だ。おそとまさんは「行きやすいくところが先ではなく、まず目的地があってツアーを提示したい」と話す。

●「親孝行」依頼多く

介護旅行専門会社「あ・えの倶楽部」(渋谷区)も体の不自由な人の旅行や外出を同社の「トラベルヘルパー」(外出支援専門員)が手伝う。墓参りや思い出の場所、温泉に行きたいという希望が多いという。親孝行のための旅行の依頼も多い。価格の目安は介護保険の「自立」・「要支援」程度で1日2万1600円、要介護3〜5程度では2万7000円。

●雑誌で情報収集

個人で旅行に行く場合、旅行雑誌「じゃらん」の「車イス・足腰が不安な方のバリアフリー旅」(リクルートホールディングス、690円)は参考になる。人気観光地の車椅子の移動に適したルートやホテルのバリアフリーの状況などを紹介している。

篠塚さんは「本人が介護を受けていることで申し訳なさそうにするのはもったいない。もっと楽しんでほしい」と背中を押す。また、おそとさんも「人生はだんだん良くなっていかなくちゃだめだと思っ」と話す。

年齢を重ねたりしてできないことが増えても、旅をサポートする選択肢も増えている。いつまでも旅に出かける楽しみを持ち続けられよう。【山田麻未、写真も】

各社の問い合わせ先

- ・NPO法人 ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク 042・372・8501
- ・あ・えの倶楽部 03・6415・6480
- ・クラブツーリズム バリアフリー旅行センター 03・5323・6915
- ・エイチ・アイ・エス バリアフリーデスク専門ダイヤル 03・5360・4761